

取組実績の概要（2 ページ以内）

【取組の全体像】

本学では、「社会で求められる人材を育成」を目指し、三層構造の学修成果の可視化の観点から以下の取り組みを実施し、教学マネジメント改革は加速した。

【第一段階】基本的事項の整理

- (1) 全学共通DP・CP・APの整備
- (2) シラバスの改善（事前事後学修の記入欄の追加）

【第二段階】（学修成果の可視化によるPDCA）

- (3) 学修行動調査の実施とその分析及び学内FD研修によるフィードバック
- (4) 「北九大教育ポートフォリオシステム」の開発と運用

【第三段階】（実践型教育における成長の可視化）

- (5) 学生の成長を評価する指標「実践活動力」の開発と測定調査（自己評価の実施）
- (6) 「多面評価」の実施
- (7) 実践型教育の「社会波及効果」の測定

【付加項目】（高大接続改革推進事業）

- (8) AP事業テーマII幹事校業務
- (9) 卒業時実績認定シートの開発と運用

【各取組の概要】

- (1) 全学共通DP・CP・APの整備

平成25年の旧カリキュラム時代に整備したAP・CP・DPを見直す作業を行った。学生の学修状況に関するデータを背景に、新カリキュラムの構築にむけて体系的に再整備を行った。

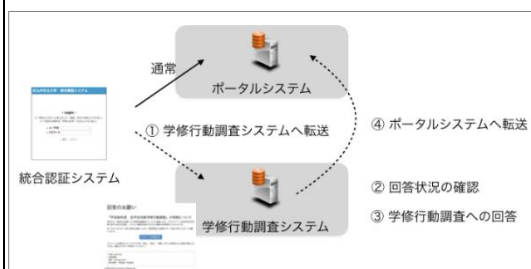
- (2) シラバスの改善（事前事後学修の記入欄の追加）

本事業の基礎要件である、シラバスに「事前事後学修」について記載する必要があったが、莫大な予算を必要とするため、当初は、教員向けのシラバス執筆マニュアルに、備考欄の事前事後学修に関する記述を行うことを明記、その後予算等の確保が実現し、平成29年度のシラバスから、執筆項目の一つとして「事前事後学修」の記載を必須とするシラバス改変が完成し、運用を開始した。

- (3) 学修行動調査の実施とその分析及び学内FD研修によるフィードバック

学修行動調査に関して、授業外学修時間の測定と授業満足度の測定を行った。まず、授業外学修時間を a) 事前事後学修時間と、b) 自主的学修時間と設定した。これは、a は本学の第3期中期計画における学修時間の指標であり、a + b が AP 事業における指標となっているために別個に設定した。AP 事業における目標週当たり15時間に対して、令和元年度は6.68時間と、目標達成には届かなかった。

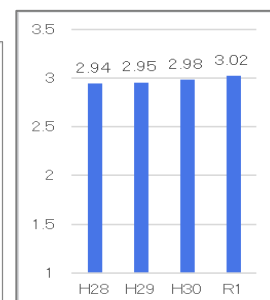
授業全体満足度は、大学教育全体での満足度を問う調査であり、4満足、3やや満足、2やや不満、1不満の4段階でたずねたものである。令和元年度は3.02となった。いずれの調査も、学生が年度当初にWebで履修登録するためにポータルサイトにアクセスした際にアンケートフォームが立ち上がる仕組みを構築したため、アンケート実施率は、ほぼ100%となった。



学修行動調査の仕組み



令和元年度授業外学修時間



同授業全体満足度

- (4) 「北九大教育ポートフォリオシステム」の開発と運用

北九大教育ポートフォリオシステムは、学修状況（DP到達度）を階的に測定することで、学生の学修成果の可視化を図り、学生自身がその可視化された情報に基づいて自分の学修に関する省察を行うシステムである。また、本システムを活用することで、本学が提供するカリキュラムや授業の問題点を見出すための評価データを蓄積することが可能となり、学生支援及び教育改善におけるPDCAサイクルの確立に寄与する。平成27年度にオープンソースソフトウェア「Mahara」をベースとして開発を開始した。主な機能として、①学修成果の可視化・省察機能【全学共通機能】、②組織等を単位とする教育情報の記録・省察機能がある。①は、履修状況（単位修得状況、GPA）と学修成果について確認できる。学修成果では、本学学生が卒業時に身につけている標準的な能力を100として、各年度の観点別に関わる能力等の修得状況を数値化して、観点別に比較できるようにレーダーチャートにて図示している。②は学科やゼミ等固

有の事情に応じた教育に関わる活動について記録・省察を行うことができる。



北九大教育ポートフォリオシステム概念図

(5) 学生の成長を評価する指標「実践活動力」の開発と測定調査（自己評価の実施）

本学の特徴でもある地域における実践型教育に関して、学修成果を可視化する取り組みとして、多面的評価項目の設定と、測定・運用の仕組みを開発した。基礎調査による調査の分析から「活動実践力」を設定。コミュニケーション力、課題発見力、計画遂行力、自己管理能力、市民力の5項目とした。

(6) 「多面評価」の実施

「実践活動力」を用いて、学生自身の自己評価だけでなく、学生同士による評価、教員による評価、地域の活動受け入れ先からの評価を同時に行い、多面的な視点からのフィードバックを学生に対して実施する仕組みを構築した。

(7) 実践型教育の「社会波及効果」の測定

実践型教育の地域への影響を測定するために「北九大実践型活動インパクト」「北九大実践型活動アウトプット」を定義し、調査を実施した。前者は、受け入れ先を、三階層に区分【第Ⅰ階層（協働者：学生と共に活動を協働する地域の方、地域の受入団体の方など）へのヒアリング、第Ⅱ階層（参加者：イベント来場など何らかの形で地域活動に参加、関与する方）へのアンケート、第Ⅲ階層（一般の方：北九州市内に在住の一般の方、）へウェブ調査】とした。後者は、具体的な活動内容に関する成果について尋ねた。

(8) AP事業テーマⅡ幹事校業務

平成28年度より、AP事業テーマⅡの幹事校としての業務を行った。テーマⅡ事業についての情報交換と事業推進を図る「あり方検討会議」、シンポジウムの企画・実施、テーマⅡWebサイトの構築、同報告書の制作といった一連の幹事校業務を推進した。

(9) 卒業時実績認定シートの開発と運用

高大接続改革推進事業の一環として、卒業時の質保証の観点から「学生活動実績認定シート」を開発した。市内企業等へのニーズ調査をふまえて、表示項目やシートフォーマットを設計。学内におけるデータを収集する仕組みの構築も行い、試験的ではあるものの、平成30年度から発行を開始した。学修成果や実践型教育の経験などが組み込まれ、有効利用が期待される。

【必須指標の達成度】 ※令和元年度4年生対象の卒業時アンケートはコロナ対策で実施出来なかった。

	平成26年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
退学率	1.5%	1.3%	0.9%
プレースメントテストの実施率	99.3%	92.9%	99.5%
授業満足度アンケートを実施している学生の割合	未実施	100.0%	77.3%※
授業満足度アンケートにおける授業満足率	未実施	85.0%	82.1%
学修行動調査の実施率	17.2%	100.0%	77.3%※
学修到達度調査の実施率	未実施	100.0%	100.0%
学生の授業外学修時間	1.5時間	15.0時間	6.68時間
学生の主な就職先への調査	有	有	無